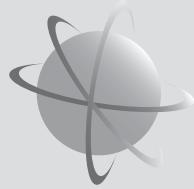


# JGA NEWS



2014年(平成26年)11月 79号

## CONTENTS

---

### • トピックス

- 後発医薬品の情報提供、競い合いで充実へ  
厚労省、16年度に新webページ ..... 1

- リレー隨想 (平森 基起) ..... 4

- 委員会活動 くすり相談委員会 ..... 7

### • お知らせ

- 第47回日本薬剤師会学術大会(山形) ..... 9

- 第28回日本臨床内科学会in岩手～臨床内科医の使命と役割～ ..... 10

- いばらきのくすり展 ..... 11

- 11月イベント参加予定について ..... 13

- ジェネリック医薬品シェア分析結果(速報値; 平成26年度)

- 第1四半期)について ..... 14

- 活動案内 ..... 16
-



## 後発医薬品の情報提供、競い合いで充実へ 厚労省、16年度に新webページ

病院や薬局の後発医薬品の採用担当者がどのメーカーを選んだらよいか比べる際に参考にしてもらおうと、厚生労働省は2016年度に同省のホームページに後発医薬品の情報提供のページを新たに設ける方針だ。医療関係者が厚労省のページを訪れ、気になるメーカーをクリックすると、その社のホームページの情報提供画面に飛ぶ仕組みだ。15年度予算でシステムを外部業者に開発してもらう委託費用として500万円を財務省に要求している。

厚労省が今年3月に発表した後発医薬品の委託研究調査の報告書によると、後発医薬品の採用に積極的な医療機関と薬局に聞き取りを行った結果、さらなる使用促進にはメーカーの積極的な情報提供が必要との意見で一致した。

このため厚労省はホームページに後発医薬品の情報提供のページを設けることを決めた。医療関係者向けの情報提供のページを完成させたメーカーから厚労省のホームページにリンクを張れるようになる。リンクを張った社とそうでない社で情報提供力の差が一目瞭然となり、情報提供の充実を競わせることで業界全体の情報提供体制の底上げを狙っている。

さらに厚労省は、各社の情報提供の画面に飛ぶ仕組みを設けることで、後発医薬品の採用を担当する医療関係者が各メーカーのホームページの中から情報を探す手間を省くことも狙っている。

厚労省が13年3月にまとめた委託研究事業の報告書によると、後発医薬品の採用担当者は品切れや販売停止による業務負担を避けるため、メーカーの安定供給体制や危機管理の対応を重視する傾向がある。具体例として報告書は、安定供給に必要な生産体制の確保や、品切れ発生時の対応、製造中止時の連絡体制、流通経路などを挙げている。厚労省は15年度にこうした報告書も参考にしながらメーカーに求める情報提供の項目を決める予定だ。

#### ◇文科省 GE促進事業、来年度の実現は不透明 DPCの評価導入受け趣旨替えも

文部科学省は15年度予算として、後発医薬品の使用割合の高い上位15の国立大病院に補助金（10億円）を交付する事業を財務省に要求した。後発医薬品の使用が進まない国立大病院のてこ入れ策として、13、14年度と予算を獲得した実績から見れば、15年度も要求が通っておかしくないが今回は不安材料がある。14年度の診療報酬改定で、新たにDPC病院に後発医薬品の使用を評価する促進策が入ったためだ。今後、財務省の査定で使用促進策が重複しているとの指摘を受け、予算が認められない可能性もある。このため文科省は、予算の趣旨を病棟薬剤師の充実に重点化し、財務省との折衝に備える構えだ。

文科省高等教育局医学教育課によると、全国42の国立大病院が独自に集計している全医薬品を分母、後発医薬品を分子とした12年度の購入額ベースの後発医薬品の使用割合は5%、数量シェアに換算すると十数%。一方、全医療機関・薬局を対象にした13年9月の数量シェア（旧計算方式）は27.6%で、年度は異なるが国立大病院は全体と比べて後発医薬品の使用が低調だ。

こうした背景から文科省は、後発医薬品の使用割合が高い上位15病院に5000万円から1億円を交付する予算事業を13年度から行い、42大学で数量シェアを競わせる仕組みを導入してきた。事業の趣旨としては、補助金を獲得した大学は薬剤師を増員し、薬剤師が勤務医に後発医薬品の情報提供を行う機会を増やすことで院内で後発医薬品への理解が深まり、後発医薬品の使用促進にもつながると訴えてきた。

#### ●他の促進策との違い、打ち出しにくく

しかし、DPC病院の「機能評価係数II」に後発医薬品指数が新設されたことで、国立大病院をめぐる環境は一気に変わりつつある。ある大学病院では、14年4月からの3カ月で数量シェアが20%から40%に2倍に増えた。すでに大手後発医薬品メーカー各社では、DPC対象病院に専門のMRを配置するなどシェアの囲い込みが始まっている。

DPCの評価導入によって国立大病院の後発医薬品シェアが大幅に増えれば、財務省の予算査定で使用促進策が重複しているとの指摘を受けかねない。そこで、文科省は15年度分は「病棟薬剤師の充実を図るため」と事業の趣旨を変更して予算要求。後発医薬品の使用割合の高い上位15病院を対象とする理由

については、「どの病院が薬剤管理業務が優れているか、評価する指標の一つとして取り入れた」と説明している。

ただこうした説明に、厚生労働省内からは、病棟薬剤師の充実が事業の趣旨だとすれば、今度は12年度に導入された「病棟薬剤業務実施加算」とインセンティブが重なるとの指摘が出ている。「後発医薬品、病棟薬剤師のどっちに転んでも診療報酬とインセンティブがかぶり苦しい状況だ」と冷ややかに見る声もある。

なお、14年度に補助金が交付される大学は以下の16大学となっている。北海道大、旭川医科大、弘前大、筑波大、福井大、山梨大、浜松医科大、名古屋大、三重大、滋賀医科大、京都大、島根大、愛媛大、佐賀大、長崎大、熊本大。



## おじさんと男のプライド ～加齢と男性ホルモンの関係考～

株式会社ローマン工業

代表取締役社長 平 森 基 起

(医学博士)

中壮年の男性、いわゆるおじさん（私もその類に漏れません）の世代となると、人間ドックで1つや2つ指摘を受けているという方も多いのではないでしょうか。仕事に頑張り続け、経済的な余裕も出て、せっかく美味しいものが自由に食べられるようになったのに、食事制限が必要になったり薬の世話になって製薬業界への貢献が始まってしまったり、という話をよく耳にします。或いは、幸い人間ドックで問題がなくても、QOL向上のため様々な努力をされている方も多いことでしょう。

おじさんたちは誰しも健康でいることを願っています。しかし過食に気をつけ運動不足にならないよう頑張っていても、加齢による男性ホルモンの低下が引き起こされ、それが内臓脂肪肥満、動脈硬化、精神力低下、不眠、うつ反応、EDなどの症状として現れることがあります。このようなL.O.H症候群に対して、以前にも増して近年、様々な取り組みがすすめられています。

L.O.H症候群に関わる男性ホルモンは、男性を男性らしくする作用をもつ各種のステロイドホルモンの総称です。世の中の男性は、男子として生を授かり、物心がつくようになると「男は強くて男らしくなくてはいけない」とされ、そのホルモンの影響を受けながら、それなりの男のプライドを持って成長していくのです。

男性ホルモンのなかでも、特に作用が強いのがテストステロンです。下半身だけのためのホルモンではなく、筋肉・骨格の成長、肥満、生活習慣病、精神面にまで広く影響を及ぼしています。そのテストステロン、一般的には年齢とともに低下すると思われていることが多いのですが、実は個人差も大きく、生活習慣でも変化することがわかっています。

自然界では、オスにとってメス獲得のための激しい戦いがあります。鹿も力

ブトムシも、オスには戦いの道具として立派な角を備えています。オスは戦い、そして勝利しなければ、メスに認められず子孫も残せないという厳しい世界があるのです。また、魚は縄張りを守っている時や他の魚同士の喧嘩を見た時、その個体のテストステロンが上がることから、男性ホルモンは攻撃や戦いを司るホルモンとも言えます。

人間でも、野球観戦で熱心に応援しているチームが勝つとテストステロン値が上がり、負けると下がるという興味深い報告があります。私もプロレス、ボクシングなどの格闘技、またバイオレンス映画を見た後に、なんだか強くなつたように思えたことがあったのは、今となってみれば男性ホルモンの仕業だったのかと気づけます。ちなみに男性ホルモンが活発な男性を今時は「肉食系男子」と言うのかもしれません。

一方で、テストステロンを減らす要因もあります。例えば、安定した平和な生活、よく勉強し頭を使うこと、ストレス、敗北感等がその一部と言われます。このところ若者で増えていると言われている草食系男子も、このあたりに理由があるのかもしれません。

さてこのテストステロン、中壮年の男性の体内においてその作用が低下してしまうと、肥満や糖尿病、うつ病や認知症の発症リスクを高めます。つまり、男性ホルモンの作用が衰えることは男性にとって万病の元になりかねないのです。

そこでどうしたら良いか。男性ホルモン低下の予防のために心がけるべきポイントがいくつかあります。

- ・まずは生活を活発にする。毎日一万歩程度歩く、週に一度は運動する。筋肉に刺激を与えることがテストステロンを上げます。
- ・ウエスト周りに注意する。
- ・よく寝て疲労をとりストレスをためない。特に徹夜はテストステロンを下げます。
- ・好きなことをする。習い事もよし。気の知れた友達と会うのもよし。また新たな人と出会うという刺激も大変よし。
- ・趣味を持ち、心豊かな時間を過ごすよう心がける。
- ・時に真剣勝負の場を持つ。

- ・パートナーとの会話を大切にする。

以上のポイントを基にこれから的生活スタイルを考えることは、私のような中壮年のおじさん達には誰にとっても、大変有効なことです。男性ホルモンが活発になり、知力、体力、決断力が磨かれます。そして良い仕事に繋がり、ひいては男性力もアップすることが期待できます。

男のプライドを忘れずに良い生活習慣をつくり、元気で活き活きしたおじさん世代を過ごそうではありませんか。

委員会だより

## くすり相談委員会

# くすり相談に関する全体研修会

日 時：平成26年9月17日(水) 13:30～17:00

場 所：東京八重洲ホール ホール(B2)

くすり相談委員会は年に1度全体研修会を開催しております。本年度は会員会社から39名にご参加頂きました。

冒頭で本年の春に実施したくすり相談アンケートの集計結果について後藤委員長より、会員会社32社より回答がありましたが、前回の調査から6年が経過しており、後発医薬品を取り巻く環境も大きく変化しているため、相談件数の増加や安定供給に対する問合せが増えた点などが、アンケート結果に反映されていました。

その後以下の通り講演が行われました。

### 講演1

「くすり相談に役立つ医薬品情報の検索と医薬品情報専門薬剤師について」

講師：一般財団法人 日本医薬情報センター(JAPIC)

開発企画担当 上原 恵子

### 講演2

「小児救急医療電話相談事業(#8000)での相談事例～熱性けいれんの対応を中心～」

講師：北習志野花輪病院小児科 高橋 系一 先生

JAPIC 上原恵子先生は医薬品情報専門薬剤師（医薬品情報の活用を通じて、医薬品の適正使用を推進することを担う専門性をもち、医薬品情報学会が認定）に関する状況について及びくすり相談に役立つ検索サービスの紹介がありました。中毒情報データベースや適応外使用医薬品データベース、JAPIC のリ

ンク集、などはすぐに実践で使用できそうなものでした。最後に FAERS と JADER (米国有害事象集積データ/PMDA 副作用が疑われる症例報告集積データ)、JAPIC 開発中のデータベース「ファルマクロス」についても紹介がありました。

また、北習志野花輪病院にお勤めの高橋系一先生は東京小児科医会の会長もされており、当研修会では初めて臨床医によるご講演でした。高橋先生は「#8000」という、休日夜間のこどものけがや病気に対する家族の判断を電話相談により支援する事業にも参画されており、相談事例についてのご紹介がありました。先生のご専門でもある熱性けいれんの相談は誤飲に次いで多いとのことで、今回の研修会では熱性けいれんについて発症年齢、持続時間、てんかんへの移行率、発作予防等について詳細にご講演頂きました。

最後に、上原恵子先生並びに高橋系一先生に深謝いたします。

## お知らせ

### ☆10月イベント参加報告について

#### ○第47回日本薬剤師会学術大会（山形）

平成26年10月12日（日）～13日（月）の2日間、山形市において、「オール薬剤師の新たなあゆみー出羽の国やまがたから発信ー」のテーマのもとに、第47回日本薬剤師会学術大会が開催されました。

12日（日）には「医師・患者から信頼されるジェネリック変更調剤のコツ～薬局で明日からすぐできる～」と題して、座長に保険薬局経営者連合会会長の山村真一先生、演者にフローラ薬局の篠原久仁子先生を迎えて当協会共催のランチョンセミナーが開催されました。本セミナーには90名の聴講者があり、篠原先生から日頃ジェネリック医薬品変更調剤において、患者様や、処方医師にどう対応しているか、またジェネリック医薬品の製剤工夫が患者様のアドヒアランス向上につながっているか等、実際の事例を交えてご紹介いただきました。

同日開催された分科会「ジェネリック医薬品の普及に果たす薬剤師の役割」では「ジェネリック医薬品の品質向上への取り組み」と題して当協会の品質委員会副委員長 川俣知己氏が講演されました。

当協会の展示ブースでは来訪された先生方に「ジェネリック医薬品情報提供システム」を中心に協会の取り組み等を紹介しました。既にシステムを使用している先生、そしてシステムを初めて知る先生、共に高評価をいただきました。ブースにおいては地域薬剤師会が開催する一般向けジェネリック医薬品セミナーに使用する資料等のご相談もいただき、地域における使用促進の動きが活発になっている事を実感いたしました。

展示ブースでの対応者は約300名で盛会のうちに終了いたしました。



## ○第28回日本臨床内科学会 in 岩手

～臨床内科医の使命と役割～

開催日：2014年10月12日（土）～13日（月・祝）

会場：岩手県民情報交流センター「アイーナ」7F

本学会は、今回で2度目のセミナー・出展参加となりました。普段、ジェネリック医薬品を処方している医師に、品質、効能・効果、副作用等へのちょっとした不信を抱かれている方々がいらっしゃることから、「正しくジェネリック医薬品について理解して頂くこと」を目的に参加を行いました。

13日に共催したランチョンセミナーでは、座長に東北大学病院の藤森啓成先生をお迎えし、明治薬科大学名誉教授の緒方宏泰先生に『ジェネリック医薬品の基礎知識／先発医薬品との同等な臨床上の有効性・安全性はどのように担保されているか』を演題にご講



演を頂きました。緒方先生からは厚生労働省作成の「ジェネリック医薬品Q&A」を基に、臨床上の同等性の担保についてわかり易く説明が行われました。

今回は、台風が急接近していたこともあり、50名弱の参加となりましたが、ジェネリック医薬品に強い関心をお持ちの先生方が集まったと思います。

講演終了後の質疑応答では、「臨床上の同等」という捉え方ではなく「物として同じか否か」という観点の質問、原薬への不信感からの質問、その他制度に關係した質問として、欧米と価格や使用状況が違う点、同等であるのに適応症が異なる点などのやり取りが行われました。

協会展示ブースへ立ち寄られた先生の中には、ジェネリック医薬品をあまり使用しない理由として、効果の違いや添加物への不安などを話されて

いた先生も多数いらっしゃいました。先生方は、品質や同等性を完全に否定している訳ではなく、日々忙しい為かジェネリック医薬品に対する簡単な疑問を解決できるだけの情報が届いていない様でした。私

たちジェネリック医薬品に携わる側の情報提供不足も感じつつ、丁寧に説明を行うことでご理解を頂きましたが、第一線の臨床医に同じような先生方が多くいらっしゃることを思うと大変残念なことです。今後も、臨床医を対象とした学会展示を強化していくことで、私たち協会の普及啓発活動が、多くの臨床医に届くように務めて行かなくてはならないと改めて感じました。



### ○いばらきのくすり展

くすりの持つ特質やその取り扱い、また、薬剤師の役割について正しい知識を広く地域に浸透させることにより、保健衛生の維持向上に貢献することを目的として毎年、10月17日から23日までの1週間を厚労省、各都道府県及び各薬剤師会等が主催して「薬と健康の週間」としています。これを受けてこの期間、一般の方々を対象に各都道府県毎にくすりに係わる様々な啓発イベントが開催されています。

その一環として平成26年10月18日（土）から19日（日）の2日間、「いばらきのくすり展」がJR水戸駅からほど近いイオンモール内で開催されました。

G E 薬協では一般の方々へのジェネリック医薬品の啓発活動として展示ブースを出展し、「日本がもし1000人の村だったら」等の一般向け啓発冊子を活用して、ジェネリック医薬品の使用意義について説明させていただきました。

両日は快晴となり、巨大ショッピングモール内ということもあって総来場者数も3,000名を超える盛況となり、当展示ブースにおいても多数の方々

が訪れ、「ジェネリック医薬品とは何か?」「先発品と価格の違いによる品質の違いはあるのか?」など多くの質問に対応し、一般の方々にジェネリック医薬品をより身近に感じて頂ける良い機会になったと思います。



### ☆11月イベント参加予定について

11月に参加予定のイベントは、全て薬剤師系の学会展示となります。

いずれのブースにおきましても、ジェネリック医薬品の啓発資料のご案内、情報提供システムの実演・紹介、品質確保・安定供給等について、協会の取り組みなどを説明することとしています。

#### ○第53回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会 中国四国支部学術大会

開催日：平成26年11月8日（土）～9日（日）

会場：広島国際会議場

テーマ：基礎と臨床の協働 薬学・薬剤師職能の発展を目指して

参加予定者：1,800名（病院薬剤師、薬局薬剤師、製薬企業関係者、薬系大学教員及び薬学生等）

#### ○第17回近畿薬剤師学術大会

開催日：平成26年11月15日（土）～16日（日）

会場：和歌山県民文化会館 他

テーマ：一意薬心～国民のための薬剤師をめざし原点を見直そう～

参加予定者：1,500名（病院薬剤師、薬局薬剤師、製薬企業関係者、薬系大学教員等）

#### ○第76回九州山口薬学大会

開催日：平成26年11月23日（日/祝）～24日（月/休）

会場：和歌山県民文化会館 他

テーマ：長崎からの発信 歴史を刻め、薬剤師～チーム医療・在宅医療・多職種連携へ薬剤師力の發揮を～

参加予定者：3,500名（薬剤師、薬学関係者、薬学生等等）

☆ジェネリック医薬品シェア分析結果（速報値：平成26年度第1四半期）について  
標記について、以下のとおりまとまりましたのでご案内申し上げます。

●平成26年度第1四半期（4月～6月）のジェネリック医薬品（GE医薬品）の  
数量シェア分析結果（新指標、速報値）

第1四半期の数量シェア
49.8%

【参考】

(1) 四半期ごとの数量シェア分析結果の推移〔速報値〕

	平成25年度				平成26年度
	第1Q	第2Q	第3Q	第4Q	第1Q
新指標	43.1%	43.1%	44.9%	49.5%	49.8%
旧指標	26.6%	26.7%	27.8%	30.2%	31.1%

Q：四半期

(2) 年度ごとの数量シェア分析結果推移

	平成23年度	平成24年度	平成25年度
新指標	-----	-----	45.1%
旧指標	23.3%	25.8%	27.8%

(注)・本資料中の分析結果値は、日本ジェネリック製薬協会が一部IMSデータを用い調査したもの。

・四半期ごとの分析結果は、協会理事・監事会社等を対象とした調査結果及び一部IMSのデータを基に推計した速報値。全員会社を対象とした年間通しての結果とは相違がある。

## (3) 用語の説明

新指標：

$$[G E \text{医薬品のシェア}] = \frac{[G E \text{医薬品の数量}]}{[G E \text{医薬品のある先発医薬品の数量}] + [G E \text{医薬品の数量}]}$$

——「後発医薬品のさらなる使用促進のためのロードマップ」(H25.4厚生労働省)で提示された算出方法

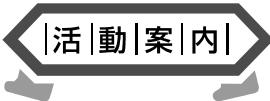
旧指標：

$$[G E \text{医薬品のシェア}] = \frac{[G E \text{医薬品の数量}]}{[すべての医療用医薬品の数量]}$$

——「後発医薬品の安心使用促進アクションプログラム」(H19.10厚生労働省)で使用されていた算出方法

【照会先】

日本ジェネリック製薬協会  
電話 03-3279-1890  
総務委員長 田中俊幸  
理事長 伏見 環


**活動案内**
**<日誌>**

10月 2日	薬価委員会幹事会 薬価委員会	東京八重洲ホール会議室 "
10月 6日	総務委員会広報部会 JGAニュース編集会議 総務委員会広報部会イベント講演グループ会議	日本ジェネリック製薬協会会議室 "
10月 7日	総務委員会総務部会	"
10月14日	信頼性向上プロジェクト常任委員会	"
10月15日	常任理事会、理事会	新大阪ワシントンホテルプラザ会議室
10月16日	総務委員会広報部会グループリーダー会 品質委員会幹事会 品質委員会	メリパルク大阪会議室 日本ジェネリック製薬協会会議室 東京八重洲ホール会議室 日本ジェネリック製薬協会会議室
10月17日	知的財産研究委員会	"
10月21日	薬制委員会幹事会 流通適正化委員会	東京八重洲ホール会議室
10月22日	薬事関連連絡会 信頼性向上プロジェクト常任委員会	" "
10月23日	再評価委員会再評価部会 安全性委員会幹事会	日本ジェネリック製薬協会会議室 "
10月28日	薬価委員会幹事会	"
10月30日	文献調査委員会	"

**<今月の予定>**

11月 4日	総務委員会広報部会 JGAニュース編集会議 総務委員会総務部会	日本ジェネリック製薬協会会議室 "
11月 5日	M R 教育研修検討チーム	"
11月 6日	倫理委員会実務委員会 総務委員会広報部会イベント講演グループ会議	" "
11月12日	常任理事会、理事会	"
11月14日	総務委員会広報部会原稿作成グループ会	"
11月17日	コード・オブ・プラクティス実務委員会	"
11月18日	薬事関連連絡会	東京八重洲ホール会議室
11月19日	総務委員会広報部会広告掲載グループ会議	日本ジェネリック製薬協会会議室
11月20日	くすり相談委員会	"
11月21日	安全性委員会幹事会	"
11月25日	薬制委員会幹事会 薬制委員会	東京八重洲ホール会議室 "
11月26日	総務委員会広報部会グループリーダー会	日本ジェネリック製薬協会会議室
11月28日	薬価委員会幹事会 薬価委員会 知的財産研究委員会	東京八重洲ホール会議室 "
"	環境委員会	日本ジェネリック製薬協会会議室

## /編/集/後/記/

寄稿の依頼を受け、やおら筆をとっていますが、そろそろ年の瀬が迫りくる時期になりました。

今年は、消費税増税問題や医療費保険制度改革など例年になく様々なファクターが複雑にからんだ中での予算編成となるような気がします。厳しい予算編成の背景には、少子高齢化という一種の人口病がある訳ですが、これが単年で解決できるようなテーマでないことは自明であろうと思います。そう思うと来年はどうだろう、再来年はどうだろうと今年の延長線上にイメージを描くというよりも、10年後の10年前にいるというような逆転の認識が必要な時代になってきているように思います。

将来に備えて先取りしていくというのはなかなかに難しいものだとも思いますが、我が国は、いろいろな面で出遅れなかつたことの方が珍しいぐらいで、後追いでも何とか将来もしたたかにやっていると思っています。過去には、今以上に未来を案じた時代もあった訳で、変革の時期を迎えて不安がない訳ではありませんが、道は出来ます。そして、ジェネリックのプレゼンスは高まりこそれ低くなることはないと確信しますが、大事なことは、何やら気分の晴れない雰囲気に呑みこまれないことではないかと思います。

ところで、年末にはクリスマスがありますが、子供も大きくなって、いつの間にやらサンタさんの贈り物をどうしようかということもなくなりました。そして、思えば、小さい頃にクリスマスプレゼントを楽しみにしていた記憶があるので、誰が、クリスマスプレゼントなるものを広めたのかよく分かりません。もともとキリスト教は暑い砂漠の地に生まれたはずでしょうから、雪のちらつくしかもトナカイに乗ったサンタさんという舞台回しというのも不思議な気がします。もっとも、仏教圏の国で、ここまで普及していることも驚きと言えば驚きかもしれません。事の背景はともかく、クリスマス頃には、いろいろな施策の方向性が見えてくると思います。やや早すぎではありますが、いいクリスマスを迎えられますように

Wishing you every happiness for the coming Christmas

(K. I.)

### ■編 集

日本ジェネリック製薬協会  
総務委員会広報部会

### ■発 行

日本ジェネリック製薬協会  
〒103-0023 東京都中央区日本橋本町3-3-4  
日本橋本町ビル7F  
TEL:03-3279-1890 FAX:03-3241-2978  
URL:www.jga.gr.jp